

講演記録 1

建築で世直しをしたい

—母と娘で「住育」を提唱—

宇津崎 光代 (株)ミセスリビング代表取締役)

全国放映された2本のテレビ番組のビデオを観ていただきました。私どもの提唱する「住育」がどういうものか、その一端をご理解願えたかと思います。これからはスライドをご覧になりながら、しばらく私の話を聞いてください。

「食育」という言葉は、皆さんよく耳にされていると思います。2005年の6月には、「食育基本法」という法律まで出来ました。しかし、住育というのは、まだ皆さんほとんどご存知ないと思います。

それでは最初に、今日ここにお座りの皆さん、毎日の暮らしを楽しんでいる方、手を挙げてください。はい、ありがとうございます。もっと手が挙がるかなあと思っていましたが、パラパラパラ、250人くらいのうちで10人も手が挙がらなかったようです。どこで伺ってもたいてい2%くらいです。暮らしを楽しんでいない、きょうもほとんどの皆さんが暮らしを楽しんでいらっしやらない。それはなぜでしょうか。

現在、住まいを考えると、どんな家にしたいのかっていうとき、皆さんは家という「箱」を考えちゃうんです。どんな未来や暮らしを楽しみたいのか、どんな生活がしたいのかっていうところにゴールが置かれていないんです。世の中、暮らしを楽しんで幸せって思う人、そんな人ばかりになったら、世の中が変わると思いませんか。今朝も横浜市内のホテルで神奈川新聞を開いて見ましたが、もう嫌なニュースばかりですね。簡単に人を殺したり、騙したり、なぜこれほど殺伐とした世の中なのでしょう。こんな社会、嫌ですよ。私は37年間、ひたすら幸せな社会を求めて、住まいづくりを研究して、検証して、追求してきました。

イライラの原因は住まいに

今から62年前にさかのぼりますが、私は1946年、幸せを運ぶコウノトリで有名な兵庫県豊岡市に生まれました。幼い頃、光（ヒカル）っていうすぐ上の兄は、いろりってご存知ですか、床を四角に切り抜いて作った炉の中にはまって、全身やけどで病院をたらい回しにされた末、母の腕の中で息を引き取りました。その後に生まれた私が光代、亡くなった兄の光の代わりっていうので、この世に誕生したんです。

画面の右側のお風呂、^{ごえもん風呂}五右衛門風呂です。手すりも無く、私のおばあちゃんは溺れて亡くなりました。左側のトイレ、昔のトイレにはびゅーんびゅーんと外から風が入るんです。お布団の中とトイレとの温度差、冬は怖いんですよ。父は脳血栓で倒れて亡くなりました。家族3人が家の中の事故で亡くなったんです。

私は、祖父も父も代々教育者の家に育ちました。父は、私が生まれたときにはもう校長先生をしていました。その厳格な父から、「人の役に立つ人にならなさい」と言われ続けて育ちました。その頃はこれが嫌だったんですけど、やっこのごろ、その意味が分かるようになりました。私は、当然のように教師の道に進みました。サントリーのウイスキー蒸留所で有名な山崎の郷（大阪府三島郡）、ここで20歳の時から小学校の教師です。4年制の大学にも合格して入学しようと思っていたのに、当時のことですから婚期が遅れるからって短大に行かされたんです。

小学校の教師を始めて間もなく、真面目を絵に描いたような父親とはまるで正反対の建築家と恋愛をしてしまい、22歳で結婚をしました。1年後には長女、つづいて長男、次女、3人の子どもを出産しました。そうしたら夫が、「建設会社を独立したい」と言いだし、一方的に「教師を辞めろ」ということで、たった5年で教師を辞めました。建設会社の常務取締役じゃなくて、“常務取り締まられ役”として入社です。3人の子育てをしながら、経理にお茶くみに現場片付けに営業、1人で何役もさせられたんです。

ところが皆さん、毎日の家事、子育てをしながら、自分の住む家がちっとも優しくなかったんです。イライライライラするのは、住まいに原因があるんで

す。キッチンに立ったら、家族の顔が見えないんです。狭いし、収納スペースがありません。お風呂に入ったらまあこれ、牢屋みたいでしょ。窓が高いところであって、縦の格子があって、お風呂は牢屋じゃないんです。浴槽のエプロンも高くて、この湯船なんて足が上がりません。入りづらいでしょう。それに、こんな洗面所です。狭いし、収納スペースもないのです。朝起きたら気持ちよく顔を洗いたいのに、こんなところで顔を洗うんですよ。トイレも男女一緒に落ち着かない。タイルで寒いし、嫌だなあって。現場に出れば出るほど、私は間取りに大きな疑問を感じるようになりました。

皆さん、自分の家、快適ですか？ なぜ洗濯機は1階にあるのに、干し場は2階のベランダに干すの？ なぜ玄関のすぐ横にトイレだけあるの？ なぜ押し入ればかりなんです？ 収納が使いたい場所がないんです。キッチンの手順が逆で、使いづらい。この間取りでは子どもが帰ってきてても、お母さんには分からない。殺人を犯した子ども達のお部屋、お家、みんなこんなふうなんだそうです。出たり入ったりが勝手に出来る家、それで殺人まで犯したりしています。

ある時、夫に口を出しました。すると、「使い勝手なんか住む人が考えるんや、ど素人は黙っとけ！」と、バッシンってしばき倒されました。「まわりを見てみ、みんな男社会で、男性ばかりやろ」。夫たち、建築のプロの皆さんは、仕事人間ばかりで、家に帰ったら寝るだけ、お風呂に入って寝るだけ。



宇津崎光代（うつぎき・みつよ）氏の略歴：株式会社ミセスリビング代表取締役。NPO法人次世代の家と社会をつくる会理事長。1946年兵庫県豊岡市に生まれる。京都女子短大卒業後、小学校教師を5年勤め退職。71年に夫の建設会社に入社し、86年主婦の代弁者をしたいと株式会社ミセスリビングを設立。女性目線での住まいづくりを研究・検証し、親子4代30余年をかけて『住育』にたどりつく。2000年に家事、子育て、介護まで楽にできる「お母ちゃんの家＝住育の家」を完成、京都国際会館の近くで長女の家族とともにふだんの暮らしを公開し続けている。心理学の視点から住まいのあり方を研究・提唱する長女と、住育の理想を設計図にする一級建築士の次女の支えを受けて、「家族が仲良くなる住まいを！」「子育てや介護が楽にできる住まいを！」「お母さんが家族の太陽に！」と訴えている。

本業を通じた社会への異色の貢献が高く評価され、09年に社団法人日本フィランソपी協会より企業フィランソピー大賞特別賞「住育・家族の絆賞」を受賞。著書に『お母ちゃんの住まい誕生』『大丈夫だよ、お母さん』ほか。

【ブログ】元気印のお母ちゃんの日記：<http://ameblo.jp/mrsrliving/m/>

「おい、飯」「風呂」「寝るぞ」、そんな夫でした。

私たち生活者の声、生活者の気持ちが理解できないんです。プロが悪いというよりも、毎日の暮らしを楽しんでらっしゃらないから分かんないんです。今から37年前、そのころの建築の世界は、もう今でも大きくは変わっていませんが男性社会です。住まいというよりも売り手主導で、まるで箱を売るような感覚でした。私が建築の世界に入った頃なんて、ほんとうにパズルのように間取りを考えるだけなんです。車の中で間取りを考えて、それをもう形にして売り出す建築会社さえありました。

私が立ち上がったのは、キャッチボールをして壁に穴があいた時なんです。よその建て売りでしたが、こんな建築を放っておくわけにはいかない、「建築で世直しをしたい」と思うようになりました。住む人の生活や、家族の健康への配慮が大切です。シックハウス症候群なんてほんとうにこわいでしょう。女性の使い勝手とか暮らしを楽しむなんて、当時ほとんどなかったんです。

私は3人の子育てをしながら、睡眠3時間で、ハウジングアドバイザーやインテリアコーディネーターなど3つのスクールに、泣きながら通いました。現場では職人さんたちを師匠に学びました。職人さんたちは、たくさんいろんなことを教えてくれました。それと、ヨーロッパやアメリカに福祉の研修、視察にも通ったんです。おばあちゃんが障害者で、母もリュウマチで障害者です。私も手や足が曲がってきています。それで福祉の研修、視察に、自分自身の勉強のために出かけました。そのころ、まだ設計や建築の皆さんが海外視察などに行ってるじゃない頃から通っていたんです。

「お母ちゃんの住まい」第1号誕生

インテリアプランナーなどの資格をとったおかげで、「ど素人黙っつけ！」などと言っていた夫にもやっと認められるようになりました。これは1993年に色刷りでサンケイスポーツ全国版に取り上げられた記事です。「睡眠3時間、順風航海中」なんて見出しが踊っています。

女性の視点がなかなか入れてもらえなくて、我慢できず、「主婦の代弁者になりたい」って、1986年に株式会社ミセスリビングを立ち上げました。写真の

左側の3階建てのビルを自分でデザインしました。右側の写真、社員がバブルの頃はこんなでした。

家族が「ただいま」ってワクワク帰りたくなるような家づくり。お母さんたちが、家事と子育てと介護まで楽に出来る家。暮らしやすい住まいづくりを追求して、お母ちゃんの視点での家づくりをスタートしました。順調にやっとなとスタートしました。

ところが、90年代に入ってあのバブル経済の崩壊です。会社の経営は行き詰まり、自社ビル、本社ビル、自宅、別荘、もう何もかも全てを失ってしまいました。そのうえ、1999年、夫までいきなり肺がんで他界したんです。残されたのは14億円の負債です。ほんとうにどん底に突き落とされました。そのとき残ったのは、ずっと見守ってくれていた3人の子どもたちです。勇気をくれたのは、交換日記に「大きくなったら、助けてあげるからね」と、ずっと私の後ろ姿を見て応援してくれていた3人の子どもたちです。特に娘たち2人が私を助けてくれました。

2人の娘のあいだに1人息子がいるんですが、その息子は、大手の不動産会社に就職しています。成長した娘たちと一緒に完成できたのが、「お母ちゃんの住まい」なんです。3人の家族の死、3人の子育て、両親の介護から学び考え続けた、37年のアイデアの総結集なんです。

2000年の3月、「お母ちゃんの住まい」第1号が誕生したんです。さっき、テレビを見ていただきましたが、私たち親子が実際に暮らしながらその生活を全部オープンにしています。京都の国立国際会議場から歩いて5分のところ。お寺のような、しかも京都の蔵のようなイメージにしました。左側が1階の建坪16坪のお母ちゃんの私の家、右側が娘たち4人家族の家。私が死んだら、娘たちが左側の家に移り、また孫が結婚して右側の家というふうに、ローテー



2000年3月に「お母ちゃんの住まい」第1号が誕生。左側が1階の建坪16坪のお母ちゃんの家、右側が長女の友見さんの家族の家。

ションを組みながら2世帯の提案をしています。みんなが「ただいま」って、早く帰りたくなるような家です。

ここに先週も毎日いろんな人が見学に来ていますが、「ただいま」って帰りたくなる家なんです。2001年には千葉工大とかいろんなところから見学に来られた皆さんから、「本を出版しなさい」って言われ、『お母ちゃんの住まい誕生』（ウインかもがわ刊）っていう本を出版しました。「お母ちゃんの住まい」っていう商標登録も済ませました。

京都新聞社7階で毎年、「お母ちゃんの住まいフォーラム」を開催しました。環境問題、健康問題、教育を考えるフォーラムを開催したんです。大学の先生方にも応援していただいてパネルディスカッションをしたり、それがまたもったいないからと、京都新聞の1ページを買って、スポンサーを探して毎年、こんな新聞も出しました。それを見ていただいた女性起・企業家の国際交流2001世界大会で、「母ちゃんの住まいを発表してくれ」って言われまして、右側の写真ですが、世界17カ国の皆さんに国際会議場で発表したりもしました。

このとき、日本語の『お母ちゃんの住まい誕生』が17カ国に渡りました。2004年には、お母ちゃんの住まいが毎日放送の「ちちんぷいぷい」やTBSの「はぴひる」、テレビ東京の「辰巳琢郎の夢リフォーム」などで次々と取り上げられました。

2006年、ロシアと国際交流が出来まして、『お母ちゃんの住まい誕生』の1冊から、ロシアと日本で5年間、環境問題、健康問題、文化と伝統っていうフォーラムをやって、こんな報告書までできました。母ちゃんの住まいっていうのが、たまたま当時のプーチン大統領の関係したNPOから『カチャンのイエ』というタイトルでロシア語の本になりました。なんと、ロシアでインターナショナルエコロジー賞を受賞することになりました。間取りが凄いい、お母さんたちが楽になって素晴らしいっていうので、こんな賞をもらいにモスクワまで出かけて行きました。

家族がむちゃくちゃ仲良しになる家

このお母ちゃんの住まい、特別の建て方でも何でもありません。自然の素材



宇津崎光代先生デザインの現代風ちゃぶ台
(ダイニングテーブル)と「仲良しキッチン」

や建材で建てた家なんです。そして、私はもちろん有名な建築家でもありません。大学の先生でもないんです。一主婦として、ただ住む人の立場で考えつづけて、たくさんのお母さんの声を吸い上げて、それを形にただけなんです。築8年過ぎてもう9年目なんですよ。今でもたくさんの方が見に来られ、松岡教授もこの家を見学に来てく

ださいました。

普段、家で家事をするお母さんたちが、感動されるんです。これは民主党の元党首の前原誠司さんですけど、国会議員の先生たちも何人も見学に来られています。なぜ皆さん感動されるのでしょうか。それは、お母ちゃんの視点での間取りなんです。お母ちゃんの視点での住まいづくり、それが住育の家です。基本コンセプトは、お母ちゃんが使いやすい、家族がむちゃくちゃ仲良しになる家です。安心、安全なユニバーサルデザインの家です。それと、家族がコミュニケーションをとれる住まいなんです。いろいろの代わりにみんなが仲良く囲んで料理の出来るキッチンや、ちゃぶ台ふうの丸い食卓など、集まる場所がちゃんとあるんです。

それと自然に調和するシンプルな家です。ここはヨーロッパじゃないんです。日本なんです。日本の気候を考慮し、日本の気候にあった家を建てましょう。それと、東西南北、風が流れたら気が流れて元気になるんです。私、この家に住むまでは、もうポリープができたりして、腎臓、肝臓、全部ダメだったんです。このウチに住んでから、いま人間ドックで検査を受けても、どこも悪くない。それと「10年前より若返った」って言われるんです。廊下がなく、家族の居場所が分かる家。どこにいても家族の居場所が分かるっていうのは、落ち着くんですよ。 「ただいま」「おかえり」が全ての基本なんです。

これ、滋賀県に出来たモデルハウスなんですけど、今日連れてきた孫と、その上の孫、長女の友見とその夫、みんなにモデルになってもらいました。孫は

5歳になります。どこに行ってもきちっと靴を揃えるんですよ。それと帰ってきたら、一番にうがいをします。私の家に来たら「チーン」と仏様にご挨拶ができる。これ、いまの真希です。今日、教室に孫まで連れて来ているんですが、こんなエビフライ、皆さん、料理できますか？ この5歳の子、エビフライ、油に入れるまで全部、自分で料理が出来るんです。ちっちゃな包丁も使えるんです。お手伝い大好きなんです。

家族の集まる場所、お父さんの新聞をめくる音、男の子には情緒が安定していいんですって。子どもはダイニングテーブルで勉強しましょう。東大をトップで卒業した女の子に聞きました。みんな個室に入らない。ダイニングテーブル、これいいでしょう。東大に入る学生たち、ダイニングテーブル。なんでや。家族共通の場所、ここで勉強して、お母さんのまな板の音、料理のにおい、いちばん子どもたちの気持ちが安定するんです。それと家族共通の場所ですから、「さあご飯できたよ。整理整頓しましょう」と言うたら、きちっと整理整頓する。整理整頓上手にもなるんです。

家族の居場所が分かることが大事です。「おーい、ご飯ができたよ」。スルーする洗面トイレ、廊下にもなる、お父さんと一緒にパソコンをしたり、本を読んだりもできる。1階と2階が分かるのが大事だよ。家族のコミュニケーションとれるのが一番大事なんです。うちの孫もこの家族会議、しょっちゅうしています。

よい住まいの環境というのは、靴を揃えたり、うがい手洗いをしたり、こんなことが自然に家庭教育で学べる、生活改善ができる。これが「住育の家」なんです。家事動線が短く、家事、子育て、介護が楽。これこそお母ちゃんの発想なんです。キッチン、風呂、ただスルーするだけではないんです。さらに大きな贈りものがあるんです。子どもにも高齢者にも元氣と勇氣と達成感を与えてくれるんです。

キッチンから洗面トイレ、お風呂がスルー

神奈川の皆さん、特別にお見せしますね。これ、もう動けなくなった私の母です。最後の写真なんです。娘に撮ってもらいました。我が家で洗面、トイレ、

全部脱がせてあげられて、裸です。母にもいのちをかけて写真を撮らせてもらいました。なんにも動けなくなっただけですけど、これ見てください。1人で動いて山型の手すり、1cmしか上がれないはずなのに40cmを1人でまたいだんです。汚れたのはシャワーで綺麗に洗ってあげて、リュウマチで痛い、痛い、痛いんですけど、1人で浴槽をまたいで、入れて、座れて、この顔見てください。2度とこの母の笑顔は見られません。「母ちゃんの家。太鼓判を押すよ。みんなにも勧めてあげてね」と言ってくれているようです。認知症で分からなくなっただけですけど、母の最後の言葉です。極上の笑顔、それは何だと思えますか。自分ができた、自分でお風呂に入れたっていう達成感なんです。

こんな間取りが出来たんです。子どもや高齢者だけでなく、家族にもたらす大きな贈りもの。家族関係が良くなる。エネルギーの節約、家族の負担軽減、時間の短縮、他にもまだまだ数えきれないんです。ご存知でしたか。住育。家族を癒してくれて、育ててくれる。この住育って言う言葉を皆さん方に分かってほしいんです。

住育を公式にすると、「よい住まいの環境×家族のコミュニケーション＝住育（幸せ家族）」です。幸せ家族がいっぱいになる、これが住育です。37年間、



向こう側から洗面所・トイレ、浴室、洗濯場、キッチンが並び、ドアを開けておけばスルーの廊下となる。

親子3人、親子4代で、心と暮らしを研究して検証してたどり着いた住育の家なんです。

ひとつ、例をみてくださいね。これは宮崎県です。この家を買ったら、「お母さん、おうち大嫌い、帰りたくない」。子どもがじいちゃん、ばあちゃんのおうちに帰っちゃったんです。頭を痛めたお母さんから、「宇津崎さん、おうちを見てください」って言われて訪ねたら、こんなおうちだったんです。リフォーム前です。キッチンが北、トイレは一番奥。南の日の当たるところにリビングと和室。物置になっていました。それに押し入れがあるんです。南をこんなに使ってたんです。「おうちに帰りたくない」って言われて、それを私が、ミセスリビングが凶面に

しました。「ただいま」って帰ったら、リビング、ダイニング、キッチン、キッチンから洗面トイレ、お風呂、これがスルーするんです。畳のお部屋では、親子が川の字になって寝られる。こんな間取りにしたら動線がむちゃくちゃ楽になります。視線がポイントです。リフォームが完成して2年後、6年生のお兄ちゃんは1年に10cmずつ身長が伸びて、私より大きくなっていました。家族仲良しで、むちゃくちゃ喜んでいました

こちらは10坪のリフォームの事例です。水まわりがたいへんでした。トイレだけこんな端にあって、キッチンが反対側にあって、お風呂があって、洗面があって、キッチンにいたら、家族がまったく見えない。それを全面改装しました。たった10坪なんですけど、もうどこにも行きたくない。「ただいま」って入ったら、リビング、ダイニング、キッチン、洗濯機、洗面、トイレ、浴室、これだけしか動かなくていい。この10坪の家族も、父さんが台所に立ったり、家族が変わっちゃうんです。この視線がポイントです。テレビにも紹介されました。完成して4年、家族がむちゃくちゃ仲良く楽しそうでした。お客さんから進んでのオープンハウスです。お客さんが自分だけではもったいないからと、「オープンハウスしよう」って言うてくださるんです。

全国に「お母ちゃんの住まい」のオープンハウスができました。こんなお母ちゃんの家では研修会もやっているんです。全国に、青森県、岩手県、栃木県、



全国各地に建てられた「お母ちゃんの家」のオープンハウスには、大勢の見学者が訪れている。

滋賀県、宮崎県まで、母ちゃんの住まいが出来ているんです。暮らしを楽しんでもう自慢してらっしゃるんです。2010年には、暮らし楽しみ自慢バトル大会を全国で開催したいと考えています。産官学とつないで、男性目線での常識を変えて、住育をテーマにたくさんのお母さんの心をつないで、生活改善ができる、住育の家プロジェクトを広めたいと願っています。家族仲良し、これが基本なんです。これをしないと殺人など悲惨な事件をくい止めることができないと思っています。

これは、昨年長野県で開催された講演会です。5歳の真希ちゃんもしゃべっていますが、これ500人の講演会です。『大丈夫だよ お母さん』の本も出版しました。住育という言葉からインターネットで検索をして大阪の大学生が我が家に訪ねて来ました。この住育っていうのを世に広めましょう。住育コミュニティを開催しましょう。この言い出しっぺの雑賀浩司君です。大阪からスタートしたんです。老若男女、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、今日のように大学生が集めてスタートしたんです。大阪から京都、奈良、神戸、長野、高知、福岡、大分と広がり、今年の8月14日にはモンゴルでも開催しました。

次の写真は高知大学です。大学生の1人が立ちあがって、高知大学から助成金を出してもらって、私が講演に行って、パネルディスカッションをして、住育コミュニティを開催しました。住育っていうのを各地の大学生が広げてくれているんです。

2007年、2008年と、大学生とお母ちゃんがつくる、わんぱく塾のサマーキャンプがスタートしました。わんぱく塾っていうブログもつくっています。同志社、立命館など、関西の大学生が、わんぱく塾をやって、毎日ブログを書いていますから、ぜひ見てください。

それと2000年には住育コミュニティのラジオ番組もスタートし、全国に発信しました。皆さん方ご存知ですか。きむくん、いろは出版の20代の社長なんですけど、『大丈夫だよ お母さん』を出版してくれたんです。

それと、11月には大学生とお母ちゃんがつくって、96歳のおじいちゃま、80歳のばあちゃんも一緒になって、老人施設で「がやがや塾」もスタートして活動し始めました。たくさんの皆さんが、暮らしを楽しんで、暮らす達人になっ

て、幸せの伝染をし、日本中に幸せを広げようと立ちあがりました。世界中に、大学生の応援をいただいて、住育コミュニティが広がりますように、37年前、1人の母ちゃんの熱い思いからスタートした、幸せ家族を増やしたいという宇津崎光代でした。

今日は皆さん、もっとしゃべりたいこと山盛りあるんですが、私の62年間をこれだけにおさめて皆さん方に見ていただきました。できたら、きょう神奈川大学の大学生が立ちあがって、住育コミュニティを神奈川で開催してくれたら嬉しいなあと思っています。(注記：2009年9月5日の午後2時より、松岡ゼミの主催によりかながわ県民センターホールで開催されることが決定した。)

実は、きょうもうすぐ成田空港にモンゴルの大学生と、モンゴルの住育研究会の実行委員長が到着するんです。母ちゃんの家を見学したいと、日本を訪ねてくれるんです。モンゴルでは1ヵ月の給料が日本円にしてわずか1万円です。そういう国から、大学生の代表と実行委員長が日本に来てくれるんです。明日、松岡教授と出会わせてほしいということで、東京駅の近くで大学生と松岡先生に出会ってもらおうと思っています。ロシアでも中国でもフィリピンでも韓国でもモンゴルでも、住育コミュニティが広がりますようにと願っています。

神奈川大学の皆さん、ほんとうにありがとうございました。それでは、今度は娘のほうに代わります

松岡教授 ありがとうございました。学生の皆さんも宇津崎先生のパワーに圧

倒されたんじゃないかと思いますが、もう一度、お礼と応援の拍手をしましょう。何度も名前が出た真希ちゃんです。5歳の真希ちゃんは、大学生の皆さんより料理も上手なようですが、歓迎の拍手を送りましょう。

それでは続いて、長女の友見先生にこれからお話をいただきます。



2009年5月2日には、モンゴルの首都ウランバートルで、住育に関する講演会が開かれた。